



教育再生実行会議

# 世界の大学教育の潮流と日本

—国際教養大学：日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジ構想—

公立大学法人国際教養大学

理事長・学長 鈴木 典比古

2014年12月16日

## § 1 2020年の高等教育主要国

- 2009年の世界の大学生 1億7千万人  
2020年の世界の大学生 2億9千万人(年率5%増)
- 2009年の高等教育主要国  
中国、インド、米国、ロシアで全世界の大学生の45%
- 2002年から2009年までの全世界の大学生は55百万人増加  
そのうちほぼ半数(26百万人)は中国とインドの増加
- 2002年から2009年までの期間で大学生増加率の大きかった国

国名	大学生数	増加率
トルコ	3百万人	74%
ブラジル	6,2百万人	68%
インドネシア	4,9百万人	53%

## § 2 2020年の高等教育主要5ヶ国

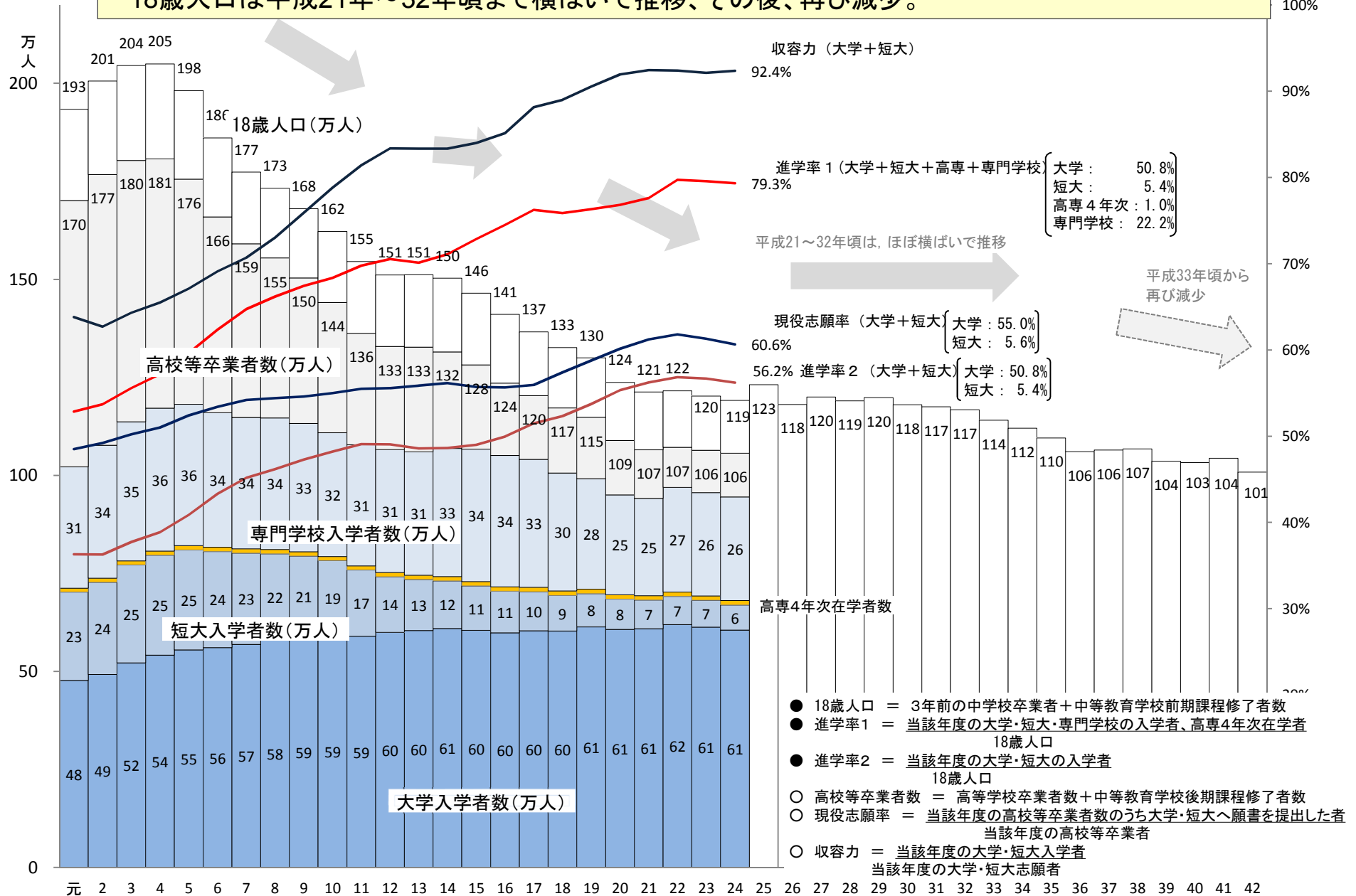
- 大学進学率が最も増加するのは中国  
2012年－24%、2020年－38%
- 大学生数－上位5ヶ国で1億人

順位	国名	大学生数
1	中国	37百万人
2	インド	28百万人
3	米国	20百万人
4	ブラジル	9百万人
5	インドネシア	7,8百万人

- しかし、2020年以降、大学生数減少する国  
中国／ロシア／ドイツ／韓国／日本

# 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 ⇒ 大学冬の時代は続く...

18歳人口は平成21年～32年頃まで横ばいで推移、その後、再び減少。



進学率1 (大学+短大+高専+専門学校)

大学	50.8%
短大	5.4%
高専4年次	1.0%
専門学校	22.2%

現役志願率 (大学+短大)

大学	55.0%
短大	5.6%

進学率2 (大学+短大)

大学	50.8%
短大	5.4%

- 18歳人口 = 3年前の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者数
- 進学率1 = 当該年度の大学・短大・専門学校の入学者、高専4年次在学者 / 18歳人口
- 進学率2 = 当該年度の大学・短大の入学者 / 18歳人口
- 高校等卒業生数 = 高等学校卒業生数+中等教育学校後期課程修了者数
- 現役志願率 = 当該年度の高校等卒業生数のうち大学・短大へ願書を提出した者 / 当該年度の高校等卒業生
- 収容力 = 当該年度の大学・短大入学者 / 当該年度の大学・短大志願者

出典: 文部科学省「学校基本調査」、平成37年～42年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(出生中位・死亡中位)」を基に作成

## § 3 大学生の国際間移動

—国際渡り鳥学生の飛来—

- 2009年 3,5百万人
- 世界の全大学生の2%
- 2020年 5,8百万人
- EU内のエラスムス計画 43万人(2010年)

国名	大学生数(人)
英国	123,192
ドイツ	50,998
オーストリア	45,518
フランス	43,341
チェコ	25,359
オランダ	22,049
ギリシャ	15,067
イタリア	14,491
スペイン	14,053
ベルギー	11,526

Robin Middlehurst,  
Trends & Issues in International  
Higher Education, CHEA Conference,  
Washington D.C. 2013.1.28 より

## § 4 2020年の高等教育主要5ヶ国

- 約240大学(米、英、豪中心)が海外校(Branch Campuses)を設置運営
- 進出先は中近東からFar Eastへ
- 米国の大学が最大(78大学)
- Niche campuses構想
- 受入れ国の対応(Education Hubs)

アラブ首長国連邦  
カタール  
香港  
クアラルンプール  
バーレーン  
パナマ  
シンガポール  
韓国

アブダビ、ドバイ  
Education City  
  
Kuala Lumpur Education City  
  
City Of Knowledge  
Global School House  
Incheon Free Economic Zone  
Jeju Global Education City

## § 5 MOOCsの世界 —全世界へ無料配信—

Massive Open Online Courses

### On Line学生の増加(Robin Middlehurst)

- 2011年 21百万人(1科目以上履修しているのは6,7百万人)
- 主要なMOOCs
  - edX
  - Coursera
  - 米国大学(著名大学多数)の2.6%がMOOCs開講  
(例:33大学で2,4百万人)
  - 9.4%が開講予定
  - 州立大学の4.7%が開講
  - ACE(American Council on Education)が履修科目の単位認定を検討
  - アジアへのMOOCs伸長

Koller & Ng, The online Revolution: Education for Everyone,  
CHEA Conference, Washington D.C. 2013.1.27 より

## § 6 日本の大学教育 —3つの問題点—

### 問題点1

日本の大学生は勉強しない

※1週間あたり授業に関連する学修時間(大学1年生)

学修時間	日本	米国
0時間	9.7%	0.3%
1～5時間	57.1%	15.3%
6～10時間	18.4%	26.0%
11時間以上	14.8%	58.4%

(東京大学・大学経営政策研究センター「全国大学生調査」2007年、サンプル数44,905人)



## § 7 日本の大学教育 —3つの問題点—

### 問題点2

日本の大学教員の担当授業数が多い

—密度の濃い授業をやっていない—

※一学期あたり担当コマ数 専門別・国公立別

人文・教育・芸術			数・物・工			農・生物・健康		
国	公	私	国	公	私	国	公	私
8.3	8.3	12.8	9.0	8.8	10	8.7	8.0	7.6

(東京大学・大学経営政策研究センター「全国大学生調査」2010年、サンプル数5,000人)

- 米国大学の教員授業担当コマ数は6コマが標準
- 日本の大学の財政的脆弱性からくる教員一人当たり授業コマ数の多さ、大教室授業、授業の質と密度の低さ
- ゼミ演習などの講義以外の形式による指導

## § 8 日本の大学教育 —3つの問題点—

### 問題点3

日本の大学教育システムには革新の可能性がない

- 個別教員の授業改善・進歩はある
- システムとして教育プログラムの改革・革新が少ない
- 学群・学部による分割統治で、教育プログラム全体のガバナンスの欠如



以上を要約すると —日本の大学教育3つの「ない」

- 1) 学生は勉強し「ない」
- 2) 教員は密度の濃い授業をし「ない」
- 3) 教学プログラムにガバナンスが「ない」

# 国際教養大学

日本発ワールドクラスリベラルアーツ構想 —日本の高等教育の景色を変える—



# 構想全体概念図

10年後の国際教養大学 (AIU)  
日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジへの進化  
日本に軸足を据え、世界で活躍する人材育成

ワールドクラスになるための  
4つの教育環境整備

## ① 24時間リベラルアーツ教育の推進

- ・ テーマ別ハウス群導入
- ・ 学生によるテーマ設定と企画運営  
留学生と協働  
例：メディアハウス、日本文化ハウス
- ・ テーマ別ハウス間交流
- ・ 学生主導による学びあう文化の確立・深化
- ・ リーダーシップ力強化

## ② 世界標準カリキュラム

- ・ デュアルアセンブリーライン・カリキュラム
- ・ 世界標準へ科目調整
- ・ 英語で日本を勉強する拠点（日本学修センター開設）
- ・ 留学生も日本を発信するアンバサダーに
- ・ MOOCs導入による講義の国際標準化
- ・ 国際協働PBL
- ・ パートナーズプログラムの実施

## ③ 日本の英語教育を改革

- ・ 日本人学生・留学生主導によるイングリッシュビレッジの開講
- ・ 小中高校教員への英語教授法指導（ティーチャーズセミナー）
- ・ 上記作業を通じ学生の企画・運営力強化
- ・ 秋田県「あきた発グローバル人材育成推進事業」と連携

## ④ 国際ベンチマーキング

学内の取組を海外トップリベラルアーツカレッジと比較・検証  
CLA結果の分析・比較、カリキュラムの検証、教職員能力強化・人事制度

大学の世界展開力強化事業  
(応用力、実践力強化)

課題発見/解決力、異文化協働力、多角的分析力、交渉力

グローバル人材育成推進事業  
(学修・教育力強化)

学修支援体制の強化と能動的学修の推進、教員交流による教育力強化

全て英語の講義、1年間の海外留学必修、コースナンバリング、GPA制度と厳格な留学単位互換管理、少人数教育、秋入学、1年生は全寮生活、90%の学生はキャンパス内居住、任期制・年俸制、テニユア制、迅速なガバナンス、365日・24時間図書館

十年後のAIU

これからの取組

これまでの取組

AIU-4つの挑戦

ワールドクラス  
リベラルアーツ

Challenge

01

国際ベンチマーキング

Challenge

02

世界基準カリキュラム

Challenge

03

英語道場・英語村

Challenge

04

テーマ別ハウス群

Challenge

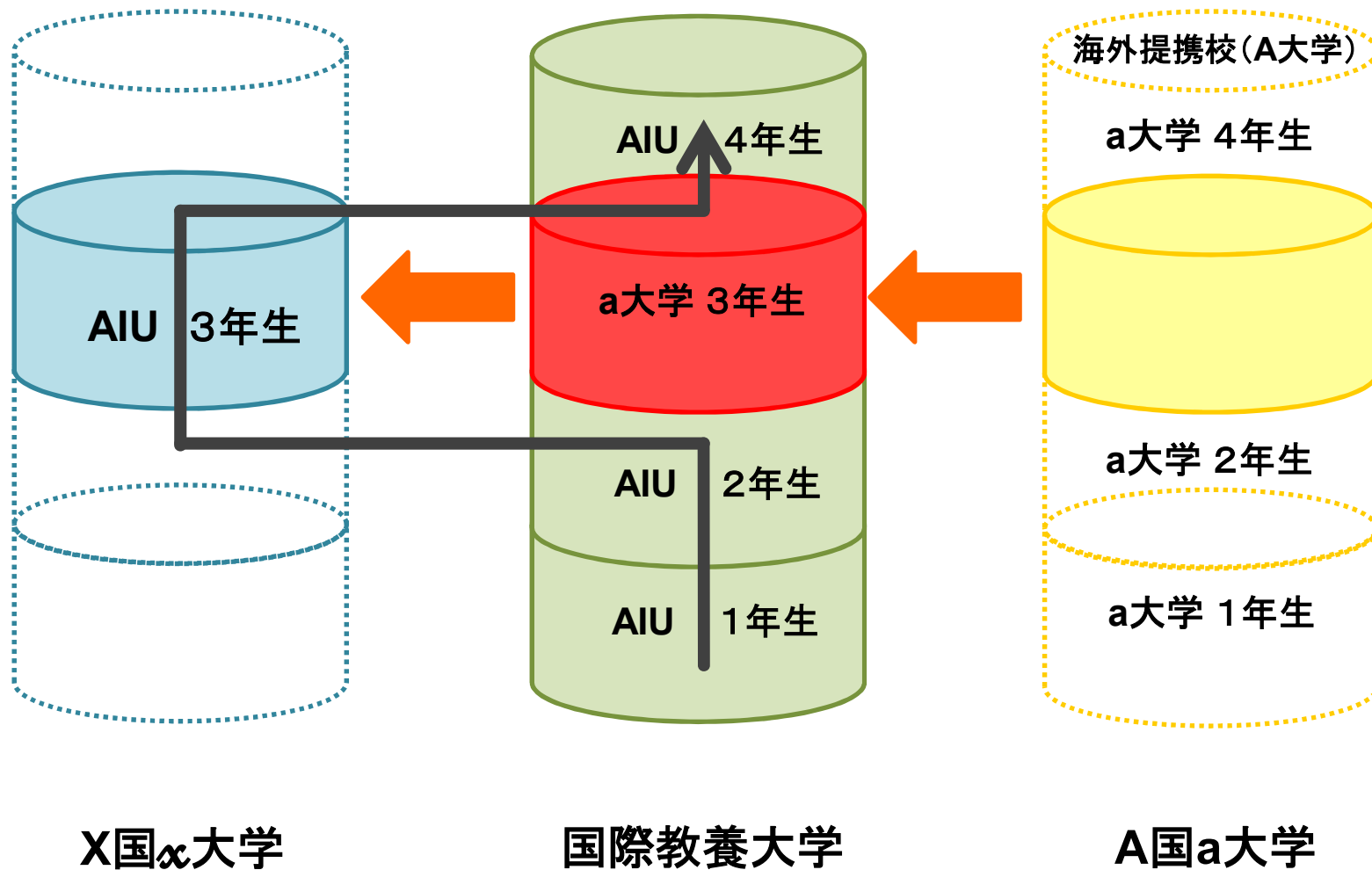
01

## 国際ベンチマーキング

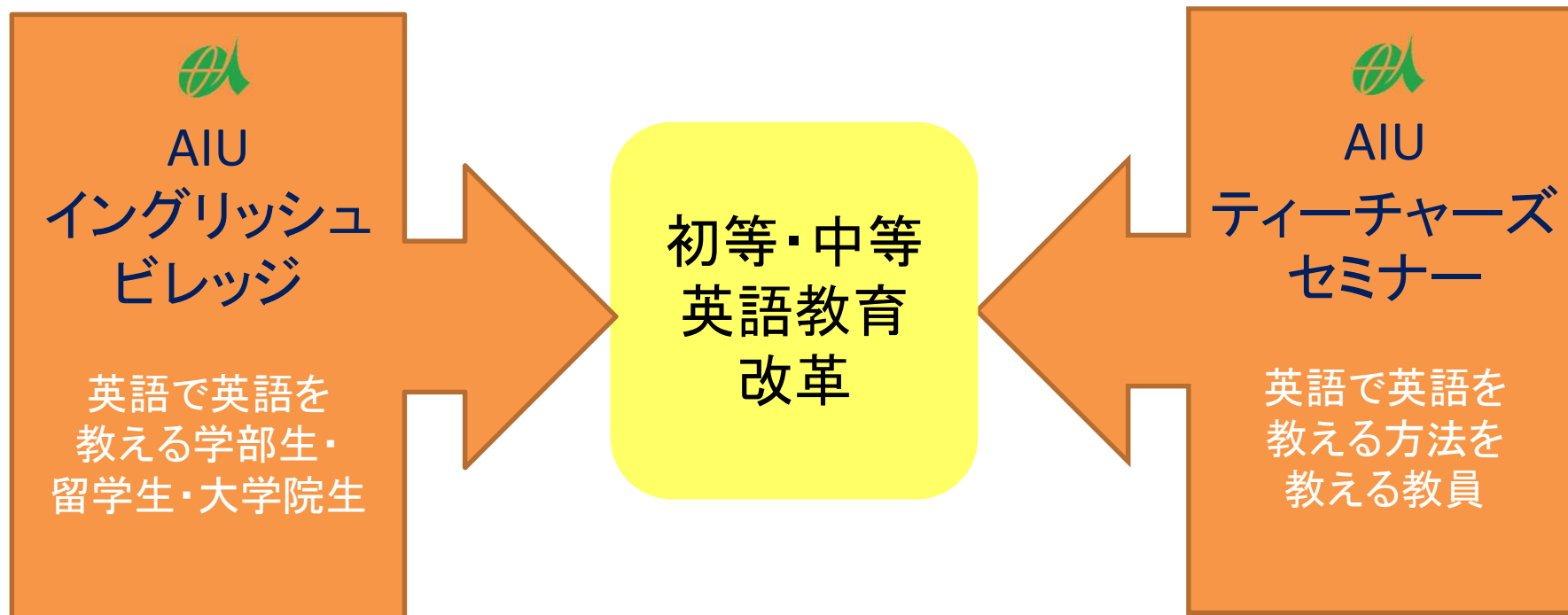
- Collegiate Learning Assessment (CLA)
  - 米国大学生とActive Learning、Learning Outcomeの比較検証
  
- 米国提携校とのベンチマーク
  - 教育課程、教育方法、教育成果のベンチマーク
  - 学生支援のベンチマーク

Challenge  
02

# 世界基準カリキュラム



Challenge イングリッシュビレッジとティーチャーズセミナー  
03 日本の英語教育を改革





Challenge  
04

学生寮：「生活寮」から「教育寮」へ  
テーマ別ハウス群導入へ

生活寮

- ・異文化協働作業
- ・リーダーシップ
- ・自己規律
- ・礼節

- ・ソーシャルイノベーションハウス
- ・日本語・日本文化ハウス
- ・英語ランゲージハウス
- ・マスコミハウス

教育寮